

申請者：原慎之介

論文題目 サプライチェーンの会計的支援に関する研究

審査員 尾畑 裕
根本敏則
挽 文子

本論文は、サプライチェーン・マネジメントにたいする管理会計的な支援の可能性を検討するとともに、サプライチェーン問題を論じることがどのように管理会計の発展に役立ちうるかを明らかにしようとした研究である。サプライチェーン・マネジメントの論文と管理会計の論文の両面から主要論文をサーベイするとともに、サプライチェーン・マネジメントと管理会計のそれぞれの文献のデジタルデータを大量に集め、それにテキストマイニングを行うことにより、いままで管理会計研究のなかで重視されてこなかったサプライチェーンにかかわる研究領域を抽出した。それは「資金」、「輸送」、「危機」という3つの論点である。それぞれの論点について詳細な検討を行っている。

本論文の貢献は、次の2つである。通常の文献レビューに加え、テキストマイニングという管理会計領域では新しい手法をうまく利用し、従来の管理会計研究で十分論じられてこなかったサプライチェーンにかかわる問題を抽出しているところである。本研究は、サプライチェーン・マネジメント研究と管理会計研究の橋渡しをするものとして高く評価することができる。もうひとつの貢献は、サプライチェーン・マネジメントと管理会計の両方にかかわる興味深い問題点を掘り下げることが、管理会計手法をサプライチェーン・マネジメント領域へ適用するという問題をこえて、既存の管理会計研究で軽視されていた資金面からの考察を拡充するという意味で管理会計研究自体の視点の拡大につながっていることを指摘したことである。たとえば、CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）の問題は既存の管理会計研究ではあまり注目されてこなかったが実務的には重要な論点である。サプライチェーン全体の観点からCCC問題を見るならば、売上債権回転期間と買入債務回転期間が相殺されるため、CCCの短縮には在庫の圧縮が重要であることを指摘しており、非常に興味深い。従来の管理会計研究においては利益指標が重視され、資金面が軽視される傾向があったが、サプライチェーン問題への取り組みが、資金的観点からの管理会計研究を強化することにつながることを明らかにした点は高く評価できる。

ただ、この研究にも問題点がないわけではない。サプライチェーン・マネジメントの文献を管理会計の観点から研究対象にしている点は評価できるのであるが、サプライチェーン・マネジメント分野で重視されている論点がかならずしも網羅的に扱われていない。この点は、本研究の欠点といえよう。ただし、この欠点は申請者の今後の研究で克服されていくべき問題であり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。